

「ゴンボウ一本小屋」敗走記

○日程

2006/11/24 (金) ~11/26 (日)

○活動場所

岡山県新見市草間岩中地区

○参加者

CL

田中雄太 Ut

SL・渉外

三好浩太 (Mo) ?型

装備

川登一弘 Kb

会計・記録

須恵功貴 Se

○計画概要

岡山県最長の洞窟「ゴンボウゾネ一本小屋の穴」は「ゴンボウゾネの穴」と「本小屋の穴」という二つの洞窟の間に、水没した新洞部分があり、渇水期の冬にのみ通り抜けが可能。全長は約3,300m。

今回は「本小屋」洞口より入洞し、「新洞部分」を経て「ゴンボウゾネ」の最奥を極めた後「ゴンボウゾネ」洞口より出洞する予定。

竪穴技術が必要な箇所があるうえ、水潜りが連続するらしい。全体の三分の一にあたる「本小屋」「新洞部分」は未経験の洞窟なのでかなりレベルの高い活動になるはずだった。

○在阪

高坂勇輝 Ty

○宿舎

岩中作業所

管理人：山口憲一氏

TEL086-774-2027

一泊300円

○渉外先

新見市教育委員会

FAX 0867-72-6120

○その他の連絡先

井倉温泉

TEL 0867-75-2211

○団装

- ヘルメット×3 (Utは個装を使用)
- ザイルバック×4
- 20mラダー×1
- 15mラダー×1
- 50mダイナミックロープ×2
- 25mダイナミックロープ×2
- ディッセンダー×5 (内ストップ×1)
- アッセンダー×3
- 環付きカラビナ
- カラビナ
- ハーネス×3 (Utは個装を使用)
- スリング
- カウテール×3 (Moは個装を使用)
- 洞窟地図 (洞内用にラミネートしたもの)
- 医療セット
- 調理セット
- ドラゴンフライ×1 ウィスパークライト×1
- ガムテープ

○個装

- つなぎ
- ウェットスーツ
- 化繊Tシャツ
- 軍手
- 地下足袋
- ヘッドランプ
- 予備ライト
- 電池 (含予備)
- 時計 (完全防水のもの)
- ナイフ (B班は特に)
- コンパス
- 笛
- サバイバルシート
- ウォータープルーフバッグ
- 行動食
- 非常食
- 洞窟の資料
- シュラフ
- ロルマ
- トレペ
- タオル
- 着替え
- 風呂セット、歯ブラシ
- コッヘル
- ブキ (食器類) 保険証、またはそのコピー
- ゴミ袋 防寒着

○記録

11月24日

- 20:05 廣州にてミーティング
- 21:10 Mo宅集合 出発 Mo壊れ気味
- 21:30 タクシーの運ちゃん気まずくて地図読んでその場のしぎ
- 21:48 ほぼ恒例発煙筒祭
- 22:02 Lifeで買い出し レーズン
UtとMoが暴走気味、のりが若手芸人
コーンポタージュボケ合戦
- 22:22 釣り具屋にトイレと掘り出し物を求めメバリストに出会う
- 22:30 出発

11月25日

- 00:07 須磨インターで休憩 出発
- 00:21 Mo 届かない手
- 00:31 Mo 60キロオーバー
- 01:25 北房のローソンに立ち寄り
- 01:30 出発 なめらかな滑り出し
Kb「帰ってきたな…」
くる度細くなる山道でSeの報われなさについて1分

01:58 到着 荷物運びブリーフィング。ゴンボウ2ピッチ目入れれば残り3時間で引き返すことに
02:50 就寝
05:50 起床 寒い
15:20 鳥の糞の処理をし温泉と飯食いに出発
途中よったコンビニの店員がATMという物を知らなかった
16:08 ガソリン給油
18:02 ジョイフルでだらだらしてから隣で晩飯のカレーの買いだし
18:25 かにと白菜、酒鍋、スープを買い出発 風呂へ
20:40 風呂でる
21:56 疾走狸
22:24 岩中作業所着
22:38 UtSeは追加買いだし残りは飯を作る

12月26日

10:30 起床 蟹雑炊を作りつつ帰阪準備
11:40頃 山口さん宅によって下道での帰阪開始
12:49 下道をあきらめ高速で帰阪 北房で乗る
17:50頃 帰阪後、装備は軽く泥を落とし解散

○CLの主観付き洞内記録

06:30 作業所出発
07:00 ゴンボウゾネ洞口到着 リギング開始
07:30 リギング終了 本小屋洞口探索へ

資料ではゴンボウゾネ洞口から沢沿いに東へ300mの洞口が行けども行けども見つからない。すると、沢は5mほどの落差に阻まれ進行不能に。高巻きをするのも不安定な泥の斜面に行く必要があり洞口を見逃したと判断して一旦はゴンボウゾネ洞口まで戻る事に。

戻る途中に洞口から流水があると言う情報をヒントに支流をつめたりするがハズレ…。

ゴンボウゾネ洞口から今度はMoの提案で歩数を数えながら進んでおよその距離をはかる事に。(めんどくさいから僕は数えなかったけどね)

下流に向かって黙々と濁水で枯れた溝と化した沢を歩く。

一度目に引き返した地点にさしかかったところで、Seが洞口を発見したと主張。Moも洞口があると言う！彼らが指差す先を見ると、沢からおよそ30mほどの急斜面の上にある岩に何となくくぼみがあるようなような…。資料によれば本小屋洞口は沢からおよそ5m上のがけに開口する二つの洞口。

「ウへん。いくら何でも高すぎるやろ。。。」

と思いながらも二人が洞口だと言い張るので突撃決定！

洞口まで斜面は不安定な泥と貧弱な草、それにうまく立ち木をホールドしてだましだまし登らないと行けない。傾斜は45°～50° くらいか？

そして、SeとMoが指差す先にたどり着いた時にみたものは…ただの窪みorz

転進…

08:13 急斜面の下りは登りよりもしんどい。一回生目に見えてテンションダウン。
上回二人は藪漕ぎに目覚めて楽しくなってきたのに。

偽洞口の下から獣道を下流に向かう。

08:30 予定より30分遅れでやっこさ本小屋洞口発見。

沢は完全に渇水期で枯れているのに、洞口からは流水があるので次はすぐに分かると思う。相変わらず一回生のテンションは少し低い。特にSeは…。

08:40 本小屋洞口より入洞

洞口からしばらくは典型的な水穴で快適。お化けフローストーンを超えてすぐに第一の難所、「股裂き」に到着。

「股裂き」の名称からいろいろ想像していたが、まさかここまでとは…。

完全にSMの三角木馬。いやぁ～ん。そいつが3mほどの頭上にあり、またいで超えないと進めない。しかも転落すれば骨折間違いなし。

やべえ、この洞窟レベルたけえ。偽洞口でジャブを食らったチームの士気がまた少し下がる。

膀裂きからは難所の連続。次は「三段フローストーン」

これは文字通り連続する三つのフローストーン。一段目、1.5m。二段目3m。三段目2mと言ったところか。特に二段目はフローストーンにホールドがなく、滑る側壁を使ってのチムニームーブが非常に不安定。一回生の事を考えると胃がキリキリする。

三段フローストーンを超えると、一回生の顔には不安が浮かんでる。CLの脳裏には撤退が浮かぶ。メンバーに対してレベルが高すぎる。経験が足りない。Moは問題ないがやはり一回には厳しい。

ただ、まだ時間は9時台。もし敗退するにしても、次回にむけて少しでも前に進み状況を見てみたい。

三段フローストーンを超えると通路は天井の高いトレンチになる。ここでひとまず危険がないので安心して進む。

が、地図ではこの通路は「グアノホール」に通じるはずなのにすぐに行き止まり。直感でトレンチを垂直に7～8m登ってみると、グアノホール発見。

しかし、後続のKbに来れるか尋ねると、答えは「無理です」

よく言った。勇気ある発言だと思う。ここまでの難所で積もり積もった不安が限界を迎えたのだろう。仕方ない、多分、このまま進んでも安全は保証できない。精神的に萎縮してしまうと簡単どころでも危険だ。

09:40 撤退決定。

だが、ここからが大変だった。件の三段フローストーン。一般的には別ルート「亀裂」から帰るのだが、グアノホール前のトレンチを敗退したのに10m以上の垂直移動の必要のある亀裂を超えるのは酷だろうから三段フローストーンをMoを先頭に降りる。が、Moが二段目で1mほど転落。長身のSeはまだしもKbが安全に下れるとも思えないので懸垂下降。

11:20 本小屋を諦め、ゴンボウゾネ側から入洞。これだと突破は不可能だが、未確認の通路の確認とサブマリンからゴンボウゾネ本洞への連結を確認しに行く。

まずはサブマリン。さらに奥へ進むと、地図ではつながっているところが、実際は3m、傾斜70度ほどの滑り台になっており通過できない！足跡はあるが、もしかしたら逆側からのものなのかもしれない。それなら行けない事もない（戻れないが）。

次に新洞部分を行けるところまで行こう！と提案するが、意見が割れる。Ut、Kbは前進を主張、Moは行くなら行きますよって感じ、でSeが言ってしまった。

「もう帰りましょうよ」

あ〜あ。

それでも、新洞部分最長の水潜りをUt、Kbのみ往復して出洞。14:30分。

ここからのエピソードは各自の雑感等で。

○雑感

Ut

簡条書きで

- ・本小屋のレベルが高すぎました。堅穴技術に加え、一定以上のクライミング能力を必要とします。
- ・ゴンボウ本小屋はラフティングで言えば大歩危・小歩危のようなハイレベルな目標になるでしょう。今回の失敗は保津を下れるようになったばかりのメンバーでボケに行ったようなもので、致し方ないものだと考えています。

- ・焼けくそになって買った晩飯のかには残念な味でした。

- ・寒さは…朝晩がヤバいですが、我慢できる範囲だと思います。化繊のシュラフなら二重にする、カイロを持って行くなどすればある程度快適に暮らせると思います。

- ・洞内の水位は10月下旬と変わりません。

- ・Moについて

Seに辛くあたり過ぎです。確かに今回のSeの態度は少し目に余るものがありましたが、ちょっとやり過ぎです。

- ・Kbについて

経験を積めば、弱点は十分克服できると思うんで、アホほど洞窟に行ってみて慣れさせて下さい。

- ・Seについて

なべさんのいう「活動のグルーウ感」というもの欠けていたと思います。

- ・来年、ゴンボウ本小屋突破を達成しましょう。てか、絶対やるで。

Mo

惨敗でした。本小屋からの撤退はメンバーの能力不足が原因であり、正しい判断だったと考えています。

今回の本小屋ケイビングでの収穫としては

- ・本小屋洞口の確認ができたこと

- ・本小屋を三段フローストーンまで経験し難度を身をもって知れたこと

- ・特に一回生の二人は長く高さのある裂け目を移動する経験ができたこと

があげられる。いずれも今後につながる情報であり経験だが、活動全体を見るとすさまじくグダグダに終わってしまったのはなぜだろうか？

原因だと考えられることを列挙する。

- ・メンバーの洞窟スキルの平均が本小屋ーゴンボウ通り抜けをするには不十分だったため、サポートしきれなかった。

- ・洞口探しの難航もあり、洞内で消極的になっていた。安全は確保しつつも勢いで抜けていくべきポイント(股裂き・三段フローストーン)で手間取り、時間的余裕をもって堅穴に臨めなかった。

- ・メンバー間のムードが実際の状況で想定される以上に険悪だった。上回は、計画との遅れゆえ一回生にいらだっていたし、一回生は先の長さを最大限悪く想像しわけのわからんところに連れてきた上回生に反発していたと思う。これが、消極的な考えに拍車をかけたスキルの不足と言ってしまうとそれまでだが、少人数の中で責任や判断を分散しつつ移動できなければ成功しないと思う。また、洞内でのポテンシャルを劇的に向上することは難しい、ゆえに前日の睡眠時間の確保や洞口の特定など洞外で出来るだけ余裕を持てるよう努力するべきではないだろうか。個人的には睡眠不足や、強行軍は活動を楽しむ要素だと思うのでつまらない判断ですが・・・

川登君は山活動にも参加して、適応力を身につけましょう。

須江君は責任ある言動を周囲に分かる形で示してください。

三好はチムニーを鍛え頼れる存在になります。

田中さんは自分で考えてください。強いて言うなら、ドライビングのハウツー本を読みましょう。自己流が強くなっていると思います。

Kb

まず反省点一つ目として、前回に比べてしっかりと洞窟地図や解説を読みこんでいませんでした。内部構造が頭に入っているのといないのでは疲れ方が随分違うもんだと実感しました。「ヨコエビのプール」とか「おぼけフロストーン」とかの各部の名前や特徴は覚えていましたが、それらがどのように接続しているかはほとんど把握できていませんでした。そしてそれらがあまり大したことない勝手に思い込んでいたことが今回のギブアップにつながったと思います。すみませんでした。

次に挙げられるのがやはり高所への異常な恐怖です。藪漕ぎでは相当迷惑を掛けてしまったし、自分に対しても、特に偽洞口の時は精神的なダメージがかなり大きかったです。そして迷いのトレンチでは正直な所、完全に腰が引けてしまい、1000回中800回は落ちてしまうんじゃないかという気がしてどうしても進むことができませんでした。克服するにはそれなりの経験と技術を身につけ、絶対に落ちないという自信を持つことだと思います。ただ堅穴については2回目ということもありましたが、前回より落ち着いて上り下りできました。やはり"慣れ"というのは重要な要素だと思いました。

3つ目は防寒が甘かった事です。屋内やから大丈夫やろうと思っていましたが、正直なところ2日目の朝、寒さでほとんど寝られなくて「来るんじゃないか」と思いました。それがやはり本小屋洞口探しのあの低すぎるテンションにつながってしまいました。また、出洞してからのこともあまり考えておらず、サブマリン通過のびちょびちょで外気にさらされ続けたため風邪をこじらせてしまいました。また、3日目にどうしようかという話になったときに、こっそり「阿哲3大狭洞突破」みたいな企画をやりたいと思っていたので宇山もしくは湯川第4、5洞でその下調べがしたい！という気持ちがあるにはあったのですが、あの気温で濡れたウェット、つなぎは着たくない！！という気持ちが勝っていたので是非どうしても行きたいと言う事ができませんでした。

サブマリン～新洞部分は2次生成物もかなり綺麗で楽しかったです。途中断念してしまったのでせめて、ゴンボウから本小屋に至る水くぐり連続区間を突破したいと思ったのですが、つい1、2時間前にへたれをかました手前、強く進むことを主張することもできず、引き返さざるを得ず残念でした。他に2日目の夜にUtさんと色々と話ができてよかったです。ああいうお酒の飲み方もあるんだなと勉強になりました。

全体的に今回は活動に対する責任感が薄かったです。ただ先輩につれていってもらおうという態度からいち早く脱却していかないといけないと強く思いました。

Se

反省文

今回の活動では湧水期にしか通れない洞窟ということで行くしかない！と意気込んでいましたが、認識が甘かったとともに自分もメンバーの一員として積極的に活動に参加する姿勢が出来ておらず、連れて行ってもらっているというのが心の中であって、足手まといになってしまったと思います。今回からは自分の役割を自覚し積極的に活動に参加して『次何を自分がすべきか』を常に考えながらこれからは行動します。

あと、通り抜けをあきらめて、かなりテンションが下がっていたとはいえ、サブマリンを終えてからその先の水くぐりをあきらめるというヘタレなことを言い、後悔しています。今思うと、あそこは行っておくべきだったと思うし、全体の士気を下げようなことを連発してしまって申し訳ありませんでした。

今回の苦い経験を教訓にこれからの活動に臨んでいきます。

Se